

【速報版】新豊根ダム 洪水調節効果 (令和3年7月 梅雨前線豪雨)

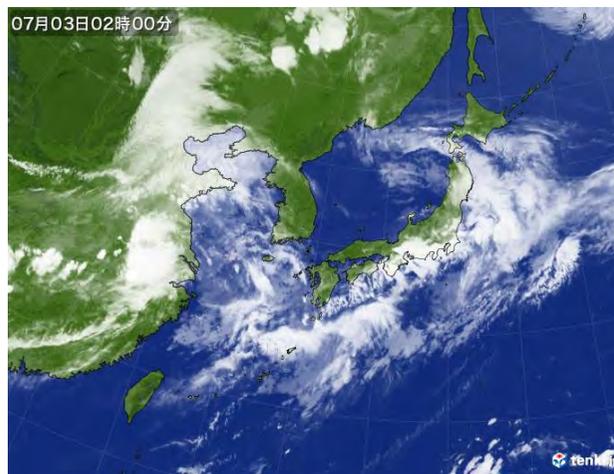
国土交通省
中部地方整備局

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正また追加をすることがあります。

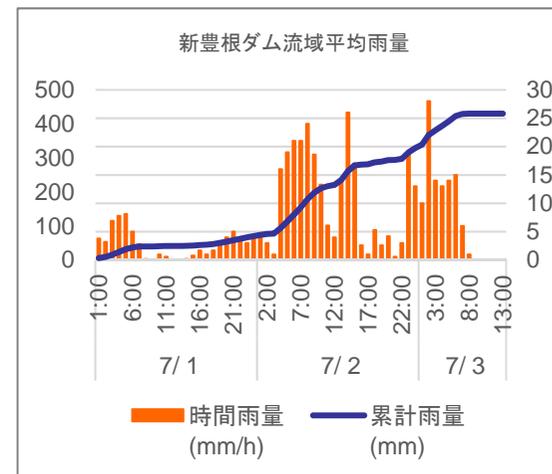
6月30日より降り出した雨は本州の南岸にのびる梅雨前線に向かい暖かく湿った空気が流れ込んだことにより、断続的に雨が強まった。前線は太平洋側付近に停滞したため、東海や関東など太平洋側を中心に7月1日～3日にかけて大雨をもたらした。



天気図(7月3日03時00分)



気象衛星(7月3日2時00分)



降雨量グラフ(7月1日～3日)

レーダー雨量



7月2日8時00分



7月2日14時00分



7月2日23時00分



7月3日2時00分

【速報版】新豊根ダム 洪水調節効果 (令和3年7月 梅雨前線豪雨)

国土交通省
中部地方整備局

- ◆令和3年7月1日からの梅雨前線に伴う豪雨により、新豊根ダム流域の平均総雨量は、約430mm(6/30 16時~7/3日13時)、時間最大雨量はダム地点で28mm(7/3日1時~2時)を観測しました。
- ◆最大流入量が約470m³/s(3日5時30分 ※10分毎のデータ)あり、全体で約3,645千m³をダムに貯留しました。
- ◆防災操作及び貯留により、ダム下流の浦川地点(水位観測所)の水位は、3.28m(3日7時00分)となりました。もしダムがなかった場合、浦川地点において、最大で水位が約160cm上昇していたものと想定されます。

